

科目	マナー実践 I	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	山下聖子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	社会人として国際的に通用するマナー、冠婚葬祭などの日本の礼儀作法を習得する。 本授業は表現学科の学習成果(4)に対応する。		
到達目標	マナーの知識を習得し、社会人として信頼される振る舞いや心遣いを身につける。		
学習成果の 評価基準	到達目標の達成度を測るため、授業内課題、定期試験で評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション(マナーとは何か・マナーを学ぶ意義)	教科書を読む(予習30分) マナーとは何か考えてくる(復習30分)	
2.	第1章: マナーの歴史と意義	教科書を読む(予習30分) 日本・西洋ノマナーの歴史をレポートにまとめる(復習30分)	
3.	第1章: マナーの歴史と意義(異文化コミュニケーション)	教科書を読む(予習30分) 異文化に接した自分の体験を発表できるよう準備する(復習30分)	
4.	第2章: 国際人としてのプロトコール(プロトコールの原則と具体的な席次例)	教科書を読む(予習30分) テキストの席次についての箇所を読む(復習30分)	
5.	第2章: 国際人としてのプロトコール(社交の場でのコミュニケーション・挨拶と紹介)	教科書を読む(予習30分) 社交の場での好ましい話題・好ましくない話題を考える(復習30分)	
6.	第2章: 国際人としてのプロトコール(国旗の扱い・異文化コミュニケーション)	教科書を読む(予習30分) テキストの国旗の箇所を読む(復習30分)	
7.	第3章: 社会人に必要なマナー(好印象を与えるコミュニケーションとは)	教科書を読む(予習30分) 第一印象を決めるものについて考えてくる(復習30分)	
8.	第3章: 社会人に必要なマナー(言葉遣い)	3教科書を読む(予習30分) 種類の敬語の使い方をまとめる(復習30分)	
9.	第3章: 社会人に必要なマナー(聴き方・話し方)	教科書を読む(予習30分) 上手な聴き方・話し方のポイントを考えてくる(復習30分)	
10.	第3章: 社会人に必要なマナー(礼装の基準)	教科書を読む(予習30分) TPOに分けて服装を表にする(復習30分)	
11.	第3章: 社会人に必要なマナー(喜ばれる贈答)	教科書を読む(予習30分) 袱紗の取り扱い方を練習する(復習30分)	
12.	第3章: 社会人に必要なマナー(手紙のマナー)	教科書を読む(予習30分) 実際に手紙を書く(復習30分)	
13.	第3章: 社会人に必要なマナー(まとめ)	教科書を読む(予習30分) 第3章までの定着を図るための復習をする(復習30分)	
14.	第4章: ビジネスシーンのマナー(ビジネスマナーの必要性・名刺の扱い方)	教科書を読む(予習30分) 会社組織について概略をまとめる(復習30分)	
15.	第4章までのまとめ(到達度確認テスト)	教科書を読む(予習30分) 前期の到達度を確認する(復習30分)	
教科書	マナー&プロトコールの基礎知識(NPO法人マナー・プロトコール協会)		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 (10%) 授業内課題 (30%) 定期試験 (50%) 授業内発表 (10%)		
特記すべき 事項	マナーを身近なものとして学ぶため、実際の経験や意見を発表していただくことがあります。また、レポートなどの課題を出すことがあります。		
質問・相談等 の受付			

科目	マナー実践Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	山下聖子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	社会人として国際的に通用するマナー、冠婚葬祭などの日本の礼儀作法や心遣いを習得する 本授業は表現学科の学習成果(4)に対応する。		
到達目標	マナーの知識を習得し、社会人として信頼される振る舞いや心遣いを身につける		
学習成果の 評価基準	マナー・プロトコール3級検定の取得を評価する。 到達目標の達成度を測るため、授業内課題、定期試験で評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	第4章：ビジネスシーンのマナー(来客応対・ビジネス文書)	教科書を読む(予習30分) ビジネス文書を実際に書く(復習30分)	
2.	第4章：ビジネスシーンのマナー(まとめ)	教科書を読む(予習30分) ビジネスマナーの定着を図るため復習をする(復習30分)	
3.	第5章：食事のマナー(食事の作法の基本・和食のマナー)	教科書を読む(予習30分) 各国の食事に使う道具について調べる(復習30分)	
4.	第5章：食事のマナー(和食のマナー)	教科書を読む(予習30分) 自分と家族の着使いをチェックする(復習30分)	
5.	第5章：食事のマナー(和室の作法・和食のまとめ)	教科書を読む(予習30分) 和室での作法をレポートにまとめる(復習30分)	
6.	第5章：食事のマナー(西洋料理のマナー・各国料理のマナー)	教科書を読む(予習30分) 各国の料理の特徴の違いをまとめる(復習30分)	
7.	第5章：食事のマナー(まとめ)	教科書を読む(予習30分) 食事のマナーの定着を図るための復習をする(復習30分)	
8.	第7章：「冠」のしきたり	教科書を読む(予習30分) 発表を前提として通過儀礼についての経験をまとめる(復習30分)	
9.	第8章「婚」のしきたり	教科書を読む(予習30分) 祝儀袋の使い方を復習する(復習30分)	
10.	第9章：「葬」のしきたり	教科書を読む(予習30分) テキスト中の難解な言葉を調べてくる(復習30分)	
11.	第10章：「祭」のしきたり	教科書を読む(予習30分) 発表を前提として年中行事の経験をまとめる(復習30分)	
12.	冠婚葬祭のしきたり(まとめ)	教科書を読む(予習30分) 定着を目的として冠婚葬祭の復習をする(復習30分)	
13.	冠婚葬祭のしきたり(まとめ)	教科書を読む(予習30分) 冠婚葬祭について各自の考え方を発表する(復習30分)	
14.	マナープロトコール一年間のまとめ(到達度の確認)	教科書を読む(予習30分) 達成確認のための試験(復習30分)	
15.	マナープロトコール一年間のまとめ(検定試験およびレポート)	教科書を読む(予習30分) 一年間の総復習と検定試験(復習30分)	
教科書			
参考書	マナー&プロトコールの基礎知識(NPO法人日本マナープロトコール協会)		
学習成果の 評価方法	受講態度(10%) 授業内課題(30%) 定期試験(50%) 授業内発表(10%)		
特記すべき 事項	マナー・プロトコール3級検定全員受験(必須) 発表やレポート課題を出します。必ず準備・提出すること。		
質問・相談等 の受付			

科目	キャリア実践演習	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	セレーノ・コーポレーション	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	好きなことを仕事にしたいという気持ちに、自分自身の目標をたてて、それに向かって努力することができます。社会人意識を持った人財、豊かな感性・理性を持ち、それを表現できる人財、変動する社会に対応している柔軟性と知識・技術を持った人財を育成します。本授業は、表現学科の学修成果(4)に対応する。		
到達目標	人間の内にある思考や感情を省察し、自己発見、自己分析のなかで自表現方法の習得、社会人として必要とされる技術・人間力を修得することができます。		
学習成果の評価基準	学習に対する取組姿勢や課題提出、授業内容の習熟度を評価します。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション	予習: キャリアを考える(30分) 復習: 学んだ内容を振り返る(30分)	
2.	自己分析(過去の自己分析シート作成①)	復習: 学んだ内容を振り返る(30分) 予習: 授業内容の下調べを行う(30分)	
3.	自己分析(過去・現在自己分析シート作成②)	復習: 学んだ内容を振り返る(30分) 予習: 授業内容の下調べを行う(30分)	
4.	SWOT分析自分の強み弱みを分析	復習: 学んだ内容を振り返る(30分) 予習: 授業内容の下調べを行う(30分)	
5.	自分史を作成・オリジナルストーリーの作成	復習: 学んだ内容を振り返る(30分) 予習: 授業内容の下調べを行う(30分)	
6.	Web集客と法律	復習: 学んだ内容を振り返る(30分) 予習: 授業内容の下調べを行う(30分)	
7.	動画の取り方基礎	復習: 学んだ内容を振り返る(30分) 予習: 授業内容の下調べを行う(30分)	
8.	動画編集基礎	復習: 学んだ内容を振り返る(30分) 予習: 授業内容の下調べを行う(30分)	
9.	動画制作と自己表現①	復習: 学んだ内容を振り返る(30分) 予習: 授業内容の下調べを行う(30分)	
10.	動画制作と自己表現②	復習: 学んだ内容を振り返る(30分) 予習: 授業内容の下調べを行う(30分)	
11.	オリジナルオーディション動画作成	復習: 学んだ内容を振り返る(30分) 予習: 授業内容の下調べを行う(30分)	
12.	自己マーケティングとブランディング	復習: 学んだ内容を振り返る(30分) 予習: 授業内容の下調べを行う(30分)	
13.	プレゼンテーションとは	復習: 学んだ内容を振り返る(30分) 予習: 授業内容の下調べを行う(30分)	
14.	成果発表	復習: 学んだ内容を振り返る(30分) 予習: 授業内容の下調べを行う(30分)	
15.	感想と課題発見	復習: 学んだ内容を振り返る(30分) 予習: 授業内容の下調べを行う(30分)	
教科書			
参考書			
学習成果の評価方法	取組姿勢(40%) 課題(30%) (提出期限を含む) 習熟度(30%) 60点以上で合格		
特記すべき事項			
質問・相談等の受付			

科目	キャリア実践	開講時期 履修方法	1年後期集中 選択、専門科目
担当者	梅野智美	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	地元企業での職場体験を行う。職場体験を通してこれまで抱えてきた職業に対するイメージをより鮮明にするとともに、これからの方向性を確認する。職場体験3日間。職場体験の事前指導、事後指導を行う。本授業は表現学科の学習成果(3)に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職業に対する理解を深め、就職をより身近に捉えることができる。 ・社会人の職業意識や現場での必要能力を把握し、学業への取り組みを深めることができる。 		
学習成果の評価基準	規定のインターンシップを終了し、受入先に求めた評価表を加味し、総合評価とする。目標設定や達成度のほか、評価表は社会人基礎力を含んだ内容とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	インターンシップ事前研修	予習：インターンシップについて(30分) 復習：授業内容の振り返り(30分)	
2.	インターンシップ	予習：企業研究(30分) 復習：職場体験の振り返り(30分)	
3.	インターンシップ	予習：各インターンシップ先の振り返り(30分) 復習：職場体験の振り返り(30分)	
4.	インターンシップ	予習：各インターンシップ先の振り返り(30分) 復習：職場体験の振り返り(30分)	
5.	インターンシップ	予習：各インターンシップ先の振り返り(30分) 復習：職場体験の振り返り(30分)	
6.	インターンシップ	予習：各インターンシップ先の振り返り(30分) 復習：職場体験の振り返り(30分)	
7.	インターンシップ	予習：各インターンシップ先の振り返り(30分) 復習：職場体験の振り返り(30分)	
8.	インターンシップ	予習：各インターンシップ先の振り返り(30分) 復習：職場体験の振り返り(30分)	
9.	インターンシップ	予習：各インターンシップ先の振り返り(30分) 復習：職場体験の振り返り(30分)	
10.	インターンシップ	予習：各インターンシップ先の振り返り(30分) 復習：職場体験の振り返り(30分)	
11.	インターンシップ	予習：各インターンシップ先の振り返り(30分) 復習：職場体験の振り返り(30分)	
12.	インターンシップ	予習：各インターンシップ先の振り返り(30分) 復習：職場体験の振り返り(30分)	
13.	インターンシップ	予習：各インターンシップ先の振り返り(30分) 復習：職場体験の振り返り(30分)	
14.	インターンシップ	予習：各インターンシップ先の振り返り(30分) 復習：職場体験の振り返り(30分)	
15.	インターンシップ事後研修	予習：今までの振り返り(30分) 復習：授業内容の振り返り(30分)	
教科書	なし		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	受入先からの評価(60%)、レポート(40%)		
特記すべき事項	「キャリアデザイン」の講義を10年以上実務経験を有している。		
質問・相談等の受付			

科目	日本語表現法Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	植木 誠	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	話し言葉としての日本語を五十音から学び、言葉を使用した表現を学ぶ 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(5)に対応する。		
到達目標	共通語を理解し、適正に使用できるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業への取り組み方を「受講態度」として評価する。 授業内での実践発表を達成度の評価とし、段階評価をフィードバックする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	授業概要の説明・自己紹介	教科書を読んでおく	
2.	「話す」「聞く」「書く」「読む」の理解	教科書を読んでおく	
3.	呼吸と発声・発音	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
4.	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
5.	「カ行」「ガ行」音について	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
6.	「サ行」「ザ行」音について	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
7.	「タ行」「ダ行」「ナ行」音について	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
8.	「ハ行」「バ行」「パ行」音について	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
9.	「マ行」「ヤ行」音について	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
10.	「ラ行」音について	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
11.	「ワ行」「撥音」「促音」「拗音」について	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
12.	文章を読む	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
13.			
14.			
15.			
教科書	「日本語の発生レッスン」		
参考書	「NHKアクセント辞典」		
学習成果の 評価方法	受講態度50%、授業内発表50%		
特記すべき 事項	声優として多数の作品に出演		
質問・相談等 の受付			

科目	日本語表現法Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	植木 誠	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	話し言葉としての日本語を五十音から学び、言葉を使用した表現を学ぶ 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(5)に対応する。		
到達目標	共通語を理解し、適正に使用できるようになる。 より多くの人に自分の意思を表現できるように、的確な音声表現が出来るようになる。		
学習成果の 評価基準	授業への取り組み方を「受講態度」として評価する。 授業内での実践発表を達成度の評価とし、段階評価をフィードバックする。 「外郎売」の発表を総合評価とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	共通語のアクセント①	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
2.	共通語のアクセント②	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
3.	共通語のアクセント③	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
4.	イントネーション①	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
5.	イントネーション②	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
6.	アーティキュレーション①	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
7.	アーティキュレーション②	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
8.	アーティキュレーション③	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
9.	外郎売①	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
10.	外郎売②	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
11.	外郎売③	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
12.	外郎売テスト	教科書を読んでおく 授業内容の確認	
13.			
14.			
15.			
教科書	「日本語の発生レッスン」		
参考書	「NHKアクセント辞典」		
学習成果の 評価方法	受講態度30%、授業内発表30%、外郎売40%		
特記すべき 事項	声優として多数の作品に出演		
質問・相談等 の受付			

科目	表現研究 I	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	山口剛一郎	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	650年以上、途絶えることなく演じられてきた日本を代表する舞台芸術である能について学び、実際に謡と舞の表現を学ぶ 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(2)に対応する。		
到達目標	袴を正しくつけ、「高砂」の謡と舞を実演することができるようになる		
学習成果の 評価基準	最終日の実演にて①正しく袴をつけていること、②大きな声で謡を謡うこと、③正しい姿勢で舞うことを評価する		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	能について①能楽の歴史、流儀、番組、能舞台について	テキストを読み予習する(30分) 授業を振り返る(30分)	
2.	能について②袴のつけ方、扇の扱い方	テキストを読み予習する(30分) 授業を振り返る(30分)	
3.	「高砂」の解説	テキストを読み予習する(30分) 授業を振り返る(30分)	
4.	「高砂」の謡、舞習得①	テキストを読み予習する(30分) 授業を振り返る(30分)	
5.	「高砂」の謡、舞習得②	テキストを読み予習する(30分) 授業を振り返る(30分)	
6.	「高砂」の謡、舞習得③	テキストを読み予習する(30分) 授業を振り返る(30分)	
7.	「高砂」の謡、舞習得④	テキストを読み予習する(30分) 授業を振り返る(30分)	
8.	「高砂」の謡、舞習得⑤	テキストを読み予習する(30分) 授業を振り返る(30分)	
9.	「高砂」の謡、舞習得⑥	テキストを読み予習する(30分) 授業を振り返る(30分)	
10.	「高砂」の謡、舞習得⑦	テキストを読み予習する(30分) 授業を振り返る(30分)	
11.	「高砂」の謡、舞習得⑧	テキストを読み予習する(30分) 授業を振り返る(30分)	
12.	「高砂」の謡、舞習得⑨	テキストを読み予習する(30分) 授業を振り返る(30分)	
13.	公演に向けての役付け	テキストを読み予習する(30分) 授業を振り返る(30分)	
14.	公演リハーサル	テキストを読み予習する(30分) 授業を振り返る(30分)	
15.	公演	テキストを読み予習する(30分) 授業を振り返る(30分)	
教科書			
参考書	能楽初心者向け冊子「学んでみよう能・狂言」120円/冊(能楽協会)		
学習成果の 評価方法	授業態度:50% 到達度の確認:50%		
特記すべき 事項	足袋、浴衣、袴、扇を持参すること 能楽師として20年以上の実務経験		
質問・相談等 の受付			

科目	身体表現研究A-I	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	齊藤 彩	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	バレエのルーツに関する知識及びアカデミックなレッスンを初心の青年層を対象として指導し、学生は動くことへの興味と実践を追求する。クラシックバレエはダンスの基本であり、アカデミックなポジションを学ぶことによって美しいラインを学び、表現者として美しい立ち姿を追求する。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(6)に対応する。		
到達目標	バレエの基本的知識を修得し、音感の向上や身体の可能性を広げると共に、バーレッスンを通し、自己を肯定し積極的に表現することができる。		
学習成果の評価基準	授業中の積極的な態度と授業内課題の成果をもって評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	バレエの歴史 ウーベルト(アンドウオール)について		
2.	腕のポジション 足のポジション 方向について バレエ用語		
3.	バーレッスン 1		
4.	バーレッスン 2		
5.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュウ 3		
6.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュウ 4		
7.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュウ 5		
8.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュウ 6		
9.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュウ 7		
10.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュウ 8		
11.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュウ 9		
12.	前期のまとめ・ポール・ド・ブラ		
13.			
14.			
15.			
教科書			
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度(50%) 授業内課題(50%)		
特記すべき事項	身体のことなので稽古量が必要とされる。自習することが望ましいが、正しく基礎をわきまえて行き怪我に注意すること。		
質問・相談等の受付			

科目	身体表現研究A-II	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	齊藤 彩	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	バレエのルーツに関する知識、及びアカデミックなレッスンを初心の青年層を対象として指導し、学生は動くことへの興味と実践を追求する。クラシックバレエはダンスの基本であり、アカデミックなポジションを学ぶことによって美しいラインを学び、表現者として美しい立ち姿を追求する。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(6)に対応する。		
到達目標	バレエの基本的知識を修得し、音感の向上や身体の可能性を広げると共に、バーレッスンを通し、自己を肯定し積極的に表現することができる。		
学習成果の評価基準	授業中の積極的な態度と授業内課題の成果をもって評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュール 1 アレグロのパへのアプローチ		
2.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュール 2		
3.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュール 3		
4.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュール 4		
5.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュール 5		
6.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュール 6		
7.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュール 7		
8.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュール 8		
9.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュール 9		
10.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュール 10		
11.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリュール 11		
12.	後期のまとめ・アダージョ・アレグロのアンシェヌマン		
13.			
14.			
15.			
教科書			
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度(50%) 授業内課題(50%)		
特記すべき事項	身体のことなので稽古量が必要とされる。自習をすることは望ましいが、正しく基礎をわかまえて行い、怪我に注意すること。		
質問・相談等の受付			

科目	身体表現研究B-I	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	福田眞弓	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	身体表現する為の基礎を身につけていく。ステップや音楽に合わせて踊ることを学ぶ。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(6)に対応する。		
到達目標	音楽に合わせて表現することができる。		
学習成果の 評価基準	授業態度・予習復習		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ストレッチ・アイソレーション	ストレッチを行う	
2.	ストレッチ・アイソレーション・ステップ①	ステップ①の予習・復習	
3.	ストレッチ・アイソレーション・ステップ①復習	ステップ①の復習	
4.	ストレッチ・アイソレーション・ステップ②	ステップ②の復習	
5.	ステップ②復習・ステップ③予習・コンビネーション①振り付け	ステップ②③の復習 振り付けの復習	
6.	ステップ③復習・ステップ④予習・コンビネーション①振り付け	ステップ③④の復習 振り付けの復習	
7.	ステップ④復習・コンビネーション①音楽に合わせて踊る	ステップ④の復習 振り付けの復習	
8.	ピルエット・コンビネーション①ポイントをおさえながら踊ってみる	ピルエットの復習	
9.	ピルエット・コンビネーション②振り付け	ピルエットの復習 振り付けの復習	
10.	ピケターン・コンビネーション②振り付け	ピケターン・振り付けの復習	
11.	ピケターン・コンビネーション②音楽に合わせて踊る・ポイントをおさえながら踊ってみる		
12.	ピケターン・コンビネーション②人前で踊る		
13.			
14.			
15.			
教科書			
参考書	ダンスシューズ・水分補給するための飲み物・タオル・身体のラインが見える動きやすい服装		
学習成果の 評価方法	授業態度(60%) 予習復習(30%) 試験(10%)		
特記すべき 事項	髪の高い方は結んでください		
質問・相談等 の受付			

科目	身体表現研究B-II	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	福田真弓	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	基礎力をつけながら、色々な曲を踊ってみる		
到達目標	振り付けを覚え、音楽に合わせて踊れるようになる		
学習成果の 評価基準	授業態度・予習復習		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	アントルラッセ①・コンビネーション③	アントルラッセ復習 振り付けの復習	
2.	アントルラッセ②・コンビネーション③	アントルラッセ復習 振り付けの復習	
3.	アントルラッセ③・コンビネーション③	振り付けの復習	
4.	グランジュッテ①・コンビネーション④	グランジュッテの復習 振り付けの復習	
5.	グランジュッテ②・コンビネーション④	グランジュッテの復習 振り付けの復習	
6.	グランジュッテ③・コンビネーション④	振り付けの復習	
7.	クラブステップ①・コンビネーション⑤	クラブステップの復習 振り付けの復習	
8.	クラブステップ②・コンビネーション⑤	クラブステップの復習 振り付けの復習	
9.	クラブステップ③・コンビネーション⑤	振り付けの復習	
10.	チャールストン①・コンビネーション⑥	チャールストンの復習 振り付けの復習	
11.	チャールストン②・コンビネーション⑥	チャールストンの復習 振り付けの復習	
12.	チャールストン③・コンビネーション⑥試験		
13.			
14.			
15.			
教科書			
参考書	身体のラインが見える服装・シューズ・タオル・水分		
学習成果の 評価方法	授業態度(60%) 予習復習(30%) 試験(10%)		
特記すべき 事項	髪の長い人は結んでください		
質問・相談等 の受付			

科目	身体表現研究C-I	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	増本 藍	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	この授業では自らの身体について理解し鍛錬を積みシアターダンスの基礎を身に付けることができる。自らの身体癖を理解しトレーニングを続ける事で積み重ねる事の大切さを知り、新しい事へ挑戦することで自信に繋がり表現の幅を広げていくことができます。		
到達目標	自らの課題に向き合い鍛錬を積み重ね表現者としてダンスの基礎を身に付けることができる。		
学習成果の 評価基準	前期終了時にテストを行いその結果において評価する。 ①柔軟性 ②基礎 ③ステップの正確さ		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	身体基礎①(ストレッチ・アイソレーション・プリエ・クロスフロア)	ストレッチ(クールダウン)	
2.	身体基礎②(ストレッチ・アイソレーション・体幹トレーニング・プリエ・クロスフロア)	ストレッチ(クールダウン)	
3.	身体基礎③(ストレッチ・アイソレーション・体幹トレーニング・プリエ・タンジュ・クロスフロア)	ストレッチ・体幹トレーニング	
4.	身体基礎④(ウォーミングアップ・体幹トレーニング・プリエ・タンジュ・クロスフロア・コンビネーションA)	コンビネーション復習	
5.	身体基礎⑤(ウォーミングアップ・体幹トレーニング・プリエ・タンジュ・ジュテ・クロスフロア・コンビネーションA)	コンビネーション復習	
6.	身体基礎⑥(ウォーミングアップ・体幹トレーニング・プリエ・タンジュ・ジュテ・クロスフロア・コンビネーションB)	コンビネーション復習	
7.	身体基礎⑦(ウォーミングアップ・体幹トレーニング・プリエ・タンジュ・ジュテ・クロスフロア・コンビネーションB)	コンビネーション復習	
8.	身体基礎⑧(ウォーミングアップ・体幹トレーニング・プリエ・タンジュ・ジュテ・クロスフロア・試験課題)	試験課題復習	
9.	身体基礎⑨(ウォーミングアップ・体幹トレーニング・プリエ・タンジュ・ジュテ・クロスフロア・試験課題)	試験課題復習	
10.	身体基礎⑩(ウォーミングアップ・体幹トレーニング・プリエ・タンジュ・ジュテ・クロスフロア・試験課題)	試験課題復習	
11.	身体基礎⑪(ウォーミングアップ・体幹トレーニング・プリエ・タンジュ・ジュテ・クロスフロア・試験課題)	試験課題復習	
12.	前期テスト		
13.			
14.			
15.			
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度(受講日数等50%)授業内課題(50%)		
特記すべき 事項	ジャズシューズ・身体のラインがわかる服装での受講		
質問・相談等 の受付	可随時可		

科目	身体表現研究C-II	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	増本 藍	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	この授業では自らの身体について理解し鍛錬を積みシアターダンスの基礎を身に付けることができる。自らの身体癖を理解しトレーニングを続ける事で積み重ねる事の大切さを知り、新しい事へ挑戦する事で自信に繋がり表現の幅を広げていく事ができます。		
到達目標	自らの課題に向き合い鍛錬を積み重ね表現者としてダンスの基礎を身に付けることができる。		
学習成果の 評価基準	後期終了時にテストを行いその結果において評価する。 ①柔軟性 ②基礎 ③ステップの正確さ		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習	
		予習・復習	
1.	コンビネーションA(ステップを正確に覚える)	ストレッチ・体幹トレーニング・基本ステップの反復練習	
2.	コンビネーションA(音楽を聞いて音に合わせて踊る)	ストレッチ・体幹トレーニング・基本ステップの反復練習	
3.	コンビネーションA(動きの流れを意識して踊る)	ストレッチ・体幹トレーニング・基本ステップの反復練習	
4.	コンビネーションA(仕上げ・オーディエンスを意識して踊る)	ストレッチ・体幹トレーニング・基本ステップの反復練習	
5.	課題振付①(4週間で振付試験課題とする)	ストレッチ・体幹トレーニング・基本ステップの反復練習	
6.	課題振付②(ステップを正確に覚える)	ストレッチ・体幹トレーニング・基本ステップの反復練習	
7.	課題振付③(音楽を聞いて音に合わせて踊る)	ストレッチ・体幹トレーニング・基本ステップの反復練習	
8.	課題振付④(フォーメーションを意識して踊る)	ストレッチ・体幹トレーニング・基本ステップの反復練習	
9.	課題振付⑤(動きの流れを意識して踊る)	ストレッチ・体幹トレーニング・基本ステップの反復練習	
10.	課題振付⑥(オーディエンスを意識して踊る)	ストレッチ・体幹トレーニング・基本ステップの反復練習	
11.	課題振付⑦(仕上げ)	ストレッチ・体幹トレーニング・基本ステップの反復練習	
12.	後期試験(グループに分かれて披露する)	ストレッチ・体幹トレーニング・基本ステップの反復練習	
13.			
14.			
15.			
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度(受講日数等50%) 授業内課題(50%)		
特記すべき 事項	ジャズシューズ・身体のラインがわかる服装での受講		
質問・相談等 の受付	随時可		

科目	身体表現研究D-I	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	上田聖子	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	ミュージカルの楽曲はなぜ人々の魂を揺り動かすのか。そこには一千数百年をかけて進化してきた西洋音楽の秘密が隠されている。時を超えて脈々と引き継がれてきたその秘密を紐解く。		
到達目標	楽曲に込められた3つの秘密を知り、それを表現する方法を身につける。その表現法には『正解』があることを理解する。		
学習成果の 評価基準	授業内において評価する。 (1) 何をどう感じれば良いのかを理解する事ができる。 (2) 楽曲を分析する事ができる。 (3) 『正解』を表現する事ができる。 100点満点中60点以上を評価基準とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	『音』とは何か、『楽譜』とは何か、『声』とは何かを考える。	ウォーミングアップ	
2.	楽曲1の楽譜と対面する。譜読みをする。楽曲の構成を分析する。	C major scaleを練習する。	
3.	楽曲1のコード進行を分析する。それがなぜ心に刺さるのかを理解する。	C major cadenceを練習する。	
4.	楽曲1のメロディーを分析する。作曲家の心の叫びを理解する。	C major scaleをマスターする。	
5.	楽曲1の歌詞を分析する。なぜこのフレーズにこの歌詞が当てはめられているのか、それを歌う登場人物の心の叫びを体験する。	C major cadenceをマスターする。	
6.	楽曲1を歌う。	F major scaleを練習する。	
7.	楽曲2の楽譜と対面する。譜読みをする。楽曲の構成を分析する。	F major cadenceを練習する。	
8.	楽曲2のコード進行を分析する。それがなぜ心に刺さるのかを理解する。	F major cadenceを練習する。	
9.	楽曲2のメロディーを分析する。作曲家の心の叫びを理解する。	F major scaleをマスターする。	
10.	楽曲2の歌詞を分析する。なぜこのフレーズにこの歌詞が当てはめられているのか、それを歌う登場人物の心の叫びを体験する。	F major cadenceをマスターする。	
11.	楽曲2を歌う。	楽曲1、2を歌う。	
12.	まとめ。		
13.			
14.			
15.			
教科書	プリントを配布。		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度(30%) 授業内課題(70%)		
特記すべき 事項	作曲家、音楽監督として40年以上の経験を有する。		
質問・相談 の受付	随時可		

科 目	身体表現研究D-II	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	上田聖子	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	ミュージカルの楽曲はなぜ人々の魂を揺り動かすのか。そこには一千数百年をかけて進化してきた西洋音楽の秘密が隠されている。時を超えて脈々と引き継がれてきたその秘密を紐解く。		
到達目標	楽曲に込められた3つの秘密を知り、それを表現する方法を身につける。その表現法には『正解』があることを理解する。		
学習成果の 評価基準	授業内において評価する。 (1) 何をどう感じれば良いのかを理解する事ができる。 (2) 楽曲を分析する事ができる。 (3) 『正解』を表現する事ができる。 100点満点中60点以上を評価基準とする。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習	
		予 習 ・ 復 習	
1.	身体表現研究D-1を振り返る。	身体表現研究D-1を復習する。	
2.	楽曲3の楽譜と対面する。譜読みをする。楽曲の構成を分析する。	Aminorscaleを練習する。	
3.	楽曲3のコード進行を分析する。それがなぜ心に刺さるのかを理解する。	Aminorcadenceを練習する。	
4.	楽曲3のメロディーを分析する。作曲家の心の叫びを理解する。	Aminorscaleをマスターする。	
5.	楽曲3の歌詞を分析する。なぜこのフレーズにこの歌詞が当てはめられているのか、それを歌う登場人物の心の叫びを体験する。	Aminorcadenceをマスターする。	
6.	楽曲3を歌う。	Eminorscaleを練習する。	
7.	楽曲4の楽譜と対面する。譜読みをする。楽曲の構成を分析する。	Eminorcadenceを練習する。	
8.	楽曲4のコード進行を分析する。それがなぜ心に刺さるのかを理解する。	Eminorcadenceを練習する。	
9.	楽曲4のメロディーを分析する。作曲家の心の叫びを理解する。	Eminorcadenceをマスターする。	
10.	楽曲4の歌詞を分析する。なぜこのフレーズにこの歌詞が当てはめられているのか、それを歌う登場人物の心の叫びを体験する。	Eminorcadenceをマスターする。	
11.	楽曲4を歌う。	楽曲1、2、3、4を歌う。	
12.	まとめ。		
13.			
14.			
15.			
教科書	プリントを配布。		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 (30%) 授業内課題 (70%)		
特記すべき 事項	作曲家、音楽監督として40年以上の経験を有する。		
質問・相談等 の受付	随時可		

科目	伝統芸能研究A-I	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	花柳三枝君	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	この授業では、浴衣の着付け、及び美しい姿勢でのお辞儀や立ち座りと、日本舞踊「菊づくし」の踊り方を理解し、日本舞踊の基本の動きを学ぶと共に、見て真似をしながら学びとることの大切さを学ぶ。		
到達目標	浴衣の着付けの習得。美しい姿勢ですり足、立ち座り、正座でお辞儀ができる。 長唄「菊づくし」の稽古により、腰の落とし方、振り方、おすべりの仕方、三つ首の仕方、腕の伸ばし方などを学ぶ。 長唄「菊づくし」の前半を踊れるようになる。		
学習成果の評価基準	美しい姿勢でのすり足、立ち座り、正座でのお辞儀及び受講態度 (20%) 小テストの評価 (30%) 仕上げテストの評価 (50%)		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	日本舞踊の概説と受講時の心構え。 日本舞踊の基本となる正しい姿勢での立ち座り、お辞儀の仕方、すり足		
2.	長唄「菊づくし」の稽古(1)		
3.	長唄「菊づくし」の稽古(2)		
4.	浴衣の着付け 扇子の見立てを見せ、扇子の扱いと扇子を使ってお辞儀の仕方		
5.	浴衣の着付け 長唄「菊づくし」の稽古(3)と小テストI回目		
6.	長唄「菊づくし」の稽古(4)		
7.	長唄「菊づくし」の稽古(5)		
8.	長唄「菊づくし」の稽古(6)と小テスト2回目		
9.	長唄「菊づくし」の稽古(7)		
10.	長唄「菊づくし」の稽古(8)		
11.	長唄「菊づくし」の稽古(9)と小テスト3回目		
12.	長唄「菊づくし」の稽古(10)と仕上げテスト		
13.			
14.			
15.			
教科書			
参考書			
学習成果の評価方法	美しい姿勢でのすり足、立ち座り、正座でのお辞儀及び受講態度 (20%) 小テストの評価 (30%)		
特記すべき事項	担当者は舞踊講師として36年の実務経験を有しています		
質問・相談等の受付	授業中や授業の前後にも受け付けます		

科目	伝統芸能研究A-Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	花柳三枝君	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	前期に引き続き、美しい姿勢でのお辞儀、立ち座り等の立居振舞を学ぶ。 前期の基本の動きから小唄「白扇の」の稽古により、柔らかく繊細な動きを観て感じて表現することで、日本人独特の繊細な感性や表現があることを学ぶ。 繰り返し復習して身に付けることを学ぶ。		
到達目標	より美しい浴衣の着付けの習得。 美しい姿勢ですり足、立ち座り、正座でのお辞儀の習得。 小唄「白扇の」の踊りを通して、扇子の扱いができるようになる。胸を使い柔らかい動きや、目線、指先にまで気を使って美しい動きができるようになる。		
学習成果の評価基準	美しい姿勢でのすり足、立ち座り、正座でのお辞儀及び受講態度 (20%) 小テストの評価 (30%) 仕上げテストの評価 (50%)		
	授業計画 (授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	小唄「白扇の」の稽古 (1)		
2.	小唄「白扇の」の稽古 (2)		
3.	小唄「白扇の」の稽古 (3) と小テスト I 回目		
4.	小唄「白扇の」の稽古 (4)		
5.	小唄「白扇の」の稽古 (5)		
6.	小唄「白扇の」の稽古 (6) と小テスト 2 回目		
7.	小唄「白扇の」の稽古 (7)		
8.	小唄「白扇の」の稽古 (8)		
9.	小唄「白扇の」の稽古 (9) と小テスト 3 回目		
10.	小唄「白扇の」の稽古 (10)		
11.	小唄「白扇の」の稽古 (11)		
12.	小唄「白扇の」の稽古 (12) と仕上げテスト		
13.			
14.			
15.			
教科書			
参考書			
学習成果の評価方法	美しい姿勢でのすり足、立ち座り、正座でのお辞儀及び受講態度 (20%) 小テストの評価 (30%)		
特記すべき事項	担当者は舞踊講師として36年の実務経験を有しています		
質問・相談等の受付	授業中や授業の前後にも受け付けます		

科目	音声表現研究A-I	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	植木 誠	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	音声のみでの表現の特性を学ぶ。 スタジオ内でのマナーや用語、マイクワークの習得。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(2)に対応する。		
到達目標	音声表現と身体表現の連動を感じ、自身の言葉に敏感な耳を得る。		
学習成果の 評価基準	授業への取り組み方を「受講態度」として評価する。 授業内での実践発表を達成度の評価とし、段階評価をフィードバックする。 「ことば」「芝居」の観点から達成度を総合評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	授業概要の説明		
2.	声優の基礎知識・声で遊ぶ	台本を読んでおく	
3.	台詞を読む	台本を読んでおく	
4.	ボイスドラマ①	台本を読んでおく	
5.	ボイスドラマ②	台本を読んでおく	
6.	ボイスドラマ③	台本を読んでおく	
7.	ボイスドラマ④	台本を読んでおく	
8.	ボイスドラマ⑤	台本を読んでおく	
9.	ボイスドラマ⑥	台本を読んでおく	
10.	アニメアフレコ①	台本を読んでおく	
11.	アニメアフレコ②	台本を読んでおく	
12.	アニメアフレコ③	台本を読んでおく	
13.			
14.			
15.			
教科書	DVD・台本等		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度40%、授業内発表60%		
特記すべき 事項	声優として多数の作品に出演		
質問・相談等 の受付			

科目	音声表現研究A-II	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	植木 誠	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	<p>音声のみでの表現の特性を学ぶ。 スタジオ内でのマナーや用語、マイクワークの習得。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(2)に対応する。</p>		
到達目標	<p>音声表現と身体表現の連動を感じ、自身の言葉に敏感な耳を得る。 声優を志す者は、特に言葉と向き合い、音声での表現力を身につける。</p>		
学習成果の 評価基準	<p>授業への取り組み方を「受講態度」として評価する。 授業内での実践発表を達成度の評価とし、段階評価をフィードバックする。 「ことば」「芝居」の観点から達成度を総合評価する。</p>		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ボイスドラマ⑦	台本を読んでおく	
2.	ボイスドラマ⑧	台本を読んでおく	
3.	ボイスドラマ⑨	台本を読んでおく	
4.	漫画に声を合わせる①	台本を読んでおく	
5.	漫画に声を合わせる②	台本を読んでおく	
6.	漫画に声を合わせる③	台本を読んでおく	
7.	漫画に声を合わせる④	台本を読んでおく	
8.	漫画に声を合わせる⑤	台本を読んでおく	
9.	漫画に声を合わせる⑥	台本を読んでおく	
10.	漫画に声を合わせる⑦	台本を読んでおく	
11.	アニメアフレコ④	台本を読んでおく	
12.	アニメアフレコ⑤	台本を読んでおく	
13.			
14.			
15.			
教科書	DVD・台本等		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度40%、授業内発表60%		
特記すべき 事項	声優として多数の作品に出演		
質問・相談 の受付			

科目	音声表現研究B-I	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	松本美和	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	声優として必要な専門用語やスタジオマナーを学ぶ スタジオ内でのマイクワーク 作品を作るにあたり、必要とされる演技を学ぶ		
到達目標	声優として必要とされる演技の習得 スタジオ内でのマナーやマイクワークの習得 専門用語を理解し台本を読むだけで世界観を把握する		
学習成果の 評価基準	授業内で積極的に発表を行い評価していく ①キャラクターの心情を理解・表現できているのか ②スタジオ内でのマイクワークを円滑に行うことができているのか また、専門用語を理解しているか小テストを行う 総合評価が60%以上で合格（C判定以上）となる		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	自己紹介 自分の魅力を表現し伝えることができているか		
2.	スタジオマナー 専門用語1	配布プリントを読んでおく	
3.	専門用語2	配布プリントを読んでおく	
4.	マイクワーク	配布プリントを読んでおく	
5.	専門用語確認テスト アニメアフレコの基礎	配布プリントを読んでおく	
6.	アニメアフレコ（第一段階）1 やってみたいキャラクターに挑戦	台本を読んでおく	
7.	アニメアフレコ（第一段階）2 キャラクターの特徴や性格を理解する	台本を読んでおく	
8.	アニメアフレコ（第一段階）3 作品発表 キャラクターの確立	台本を読んでおく	
9.	アニメアフレコ（第二段階）1 自分に合ったキャラクターの模索	台本を読んでおく	
10.	アニメアフレコ（第二段階）2 演じるキャラクターやシーンや状況を理解する	台本を読んでおく	
11.	アフレコ（第二段階）3 状況に合わせた感情表現をする	台本を読んでおく	
12.	アニメアフレコ（第二段階）4 作品発表 収録した作品をみる	台本を読んでおく	
13.			
14.			
15.			
教科書	なし		
参考書	なし		
学習成果の 評価方法	受講態度（40%）授業内課題（40%）その他【演技への積極性】（20%）		
特記すべき 事項	台本、テキストは読み込み、積極的に行動、努力すること 担当者は声優として27年の実務経験を有しています		
質問・相談等 の受付	質問・相談については授業前後に授業場所にて受け付ける		

科目	音声表現研究B-II	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	松本美和	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	アニメアフレコにおいて声優として必要とされる芝居を学ぶ スタジオ内でのマイクワークを学ぶ		
到達目標	声優として必要とされる芝居の確立 台本は使用されている専門用語を理解することにより、作品の世界観を把握する マイクワークを身につけ制作作業を円滑に行う		
学習成果の 評価基準	授業内で積極的に発表を行い評価していく (①キャラクターの心情を理解・表現できているのか ②スタジオ内でのマイクワークを円滑に行うことができているか) 総合評価が60%以上で合格(C判定以上)となる		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	アニメアフレコ1-1 綿密なキャラクター作り(第一段階)	台本を読んでおく	
2.	アニメアフレコ1-2 綿密なキャラクター作り(第二段階)	台本を読んでおく	
3.	アニメアフレコ1-3 綿密なキャラクター作り(第三段階)	台本を読んでおく	
4.	アニメアフレコ1-4 作品発表 綿密なキャラクター作り(第四段階)	台本を読んでおく	
5.	アニメアフレコ2-1 長文のセリフに挑戦(第一段階)	台本を読んでおく	
6.	アニメアフレコ2-2 長文のセリフに挑戦(第二段階)	台本を読んでおく	
7.	アニメアフレコ2-3 長文のセリフに挑戦(第三段階)	台本を読んでおく	
8.	アニメアフレコ2-4 作品発表 長文のセリフに挑戦(第四段階)	台本を読んでおく	
9.	アニメアフレコと外画アテレコの違い 外画アテレコの収録を知る	配布プリント読んでおく	
10.	外画アテレコ1-1 映像解析	台本を読んでおく	
11.	外画アテレコ1-2 アテレコ実践	台本を読んでおく	
12.	外画アテレコ1-3 作品発表	台本を読んでおく	
13.			
14.			
15.			
教科書	なし		
参考書	なし		
学習成果の 評価方法	受講態度(40%) 授業内課題(40%) その他【演技への積極性】(20%)		
特記すべき 事項	台本、テキストは読み込み、積極的に行動、努力すること 担当者は声優として27年の実務経験を有しています		
質問・相談等 の受付	質問・相談については授業前後に授業場所にて受け付ける		

科目	歌唱表現法 I	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	辺春容子	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	楽譜に慣れ、音楽の基礎知識やソルフェージュ力を身につける。実技を通して、発生方法や身体の使い方を学ぶ。本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(5)に対応する。		
到達目標	5度音程までの視唱をアカペラで歌唱できるようになる。なだらかな発語で課題曲の歌唱ができるようになる。		
学習成果の評価基準	授業内で行ったことの復習、定着の度合い。 実技試験での音程・声量・表現の観点における評価		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	音楽の基礎知識① 視唱(2度音程1~2)	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
2.	音楽の基礎知識② リズム練習1-1 視唱(2度音程)① 課題曲(1)-1	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
3.	リズム練習1-2 課題曲(1)-2 視唱(2度音程)② 課題曲(2)-1	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
4.	リズム練習2-1 課題曲(1)-3 視唱(2度音程)③ 課題曲(2)-2	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
5.	リズム練習2-2 課題曲(1)-4 視唱(2度音程)① 課題曲(2)-3	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
6.	リズム練習3-1 課題曲(2)-4 視唱(3度音程)② 課題曲(3)-1	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
7.	リズム練習3-2 課題曲(3)-2 視唱(3度音程)③ 課題曲(4)-1	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
8.	リズム練習3-3 課題曲(3)-3 視唱(4度音程)① 課題曲(4)-2	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
9.	リズム練習4-1 課題曲(3)-3 視唱(4度音程)② 課題曲(4)-2	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
10.	リズム練習4-2 課題曲(4)-3 視唱(4度音程)③ 課題曲復習①	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
11.	リズム練習1-2 課題曲復習② 視唱(4度音程)④	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
12.	授業のまとめ	前回の授業内容の復習	
13.			
14.			
15.			
教科書	基礎ソルフェージュ(ソルフェージュ教育ライブラリー) 課題曲は授業時に配布		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度20%、到達度確認テスト80%		
特記すべき事項	実技に差し支えることのないように、各自で健康管理をしっかりと行っておく。		
質問・相談等の受付			

科目	歌唱表現法Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	辺春容子	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	前期の学習を踏まえ、より音楽的な歌唱表現をめざす。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(2)に対応する。		
到達目標	さらに広い音程を安定して歌唱できるようになる。歌詞を理解することでより豊かな歌唱表現を工夫できるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業内で行ったことの復習、定着の度合い。 実技試験での音程・声量・表現の観点における評価		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習	
		予習・復習	
1.	リズム練習5-1 課題曲(5)(6)-1 視唱(5度音程)①	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
2.	リズム練習5-3 課題曲(5)(6)-2 視唱(5度音程)②	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
3.	リズム練習6-1 課題曲(5)(6)-3 視唱(6度音程)①	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
4.	リズム練習6-2 課題曲(7)(8)-1 視唱(6度音程)①	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
5.	リズム練習6-3 課題曲(7)(8)-2 視唱(6度音程)②	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
6.	リズム練習7-1 課題曲(7)(8)-3 視唱(7度音程)①	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
7.	リズム練習7-2 課題曲(9)(10)-1 視唱(8度音程)①	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
8.	リズム練習7-3 課題曲(9)(10)-2 視唱(8度音程)②	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
9.	リズム練習8-1 課題曲(9)(10)-3 視唱(総合練習)①	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
10.	リズム練習8-1 課題曲復習③ 視唱(総合練習)②	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
11.	リズム練習8-2 課題曲復習③ 視唱(総合練習)③	前回の授業内容の復習 次回の課題の譜読み	
12.	後期のまとめ	前回の授業内容の復習	
13.			
14.			
15.			
教科書	基礎ソルフェージュ(ソルフェージュ教育ライブラリー) 課題曲は授業時に配布		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度20%、到達度確認テスト80%		
特記すべき 事項	実技に差し支えることのないように、各自で健康管理をしっかり行っておく。		
賞与・相談 の受付			

科目	ミュージカル研究 I	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	河本章宏・生野奈都美・上田聖子	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	ミュージカルとは楽曲、ストーリー、台詞の中から感情を起点にダイナミックに伝える舞台表現です。それを表現するために呼吸法、発声法、身体の使い方から舞台表現までの基礎を学びます。本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(5)に対応する。		
到達目標	自分の声や身体の特徴を知り、自ら課題を克服出来る。 ミュージカルを通して自分自身の価値を見出すと共に、協調性やコミュニケーション力を身に付ける。		
学習成果の 評価基準	授業内課題において評価する。 (1)譜面を読み、複式発声でしっかり音がとれる。 (2)楽曲のイメージを具体的に表現出来る。 (3)身体と感情をコントロールして、歌唱表現が出来る。 100点満点中50点以上を評価基準とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ミュージカルとはなにか？(歴史と作品を学ぶ)	ウォーミングアップ	
2.	発声の仕組みと呼吸法・発声法を学ぶ	発声・呼吸法	
3.	発声練習・ソルフェージュ(1)を歌い、楽曲(1)の譜読みをする	発声・呼吸法・譜読み	
4.	発声練習・ソルフェージュ(2)を歌い、楽曲(1)の構成を分析し、歌唱する	発声・呼吸法・譜読み	
5.	発声練習・ソルフェージュ(3)を歌い、楽曲(1)のハーモニーを練習する	録音した音源を聞き、自らの声を聴く	
6.	発声練習・ソルフェージュ(4)を歌い、楽曲(1)を歌いこむ	録音した音源を聞き、自らの声を聴く	
7.	発声練習・ソルフェージュ(5)を歌い、楽曲(1)に感情表現を入れて歌う	録音した音源を聞き、自らの声を聴く	
8.	楽曲(1)にステージングと台詞を入れてシーンを演じる	感情・歌・動きを整理する	
9.	楽曲(1)のシーンを創造する	感情・歌・動きを整理する	
10.	楽曲(1)のシーンを総合的に演じる	感情・歌・動きを整理する	
11.	楽曲(1)のシーン(課題)を発表する	感情・歌・動きを整理する	
12.	まとめ・振り返り	客観的に振り返る	
13.			
14.			
15.			
教科書	プリントを配布		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度(30%) 授業内課題(70%)		
特記すべき 事項	動ける服装で受講のこと。 1987年～2017年東京にて多数のミュージカル作品に出演、演出。		
質問・相談等 の受付	随時可		

科目	ミュージカル研究Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	河本章宏・生野奈都美・上田聖子	授業形態 単位数	実技 0.5単位
授業概要	ミュージカルとは楽曲、ストーリー、台詞の中から感情を起点にダイナミックに伝える舞台表現です。それを表現するために呼吸法、発声法、身体の使い方から舞台表現までの基礎を学びます。本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(5)に対応する。		
到達目標	自分の声や身体の特徴を知り、自ら課題を克服出来る。 ミュージカルを通して自分自身の価値を見出すと共に、協調性やコミュニケーション力を身に付ける。		
学習成果の 評価基準	授業内課題において評価する。 (1)譜面を読み、複式発声でしっかり音がとれる。 (2)楽曲のイメージを具体的に表現出来る。 (3)身体と感情をコントロールして、歌唱表現が出来る。 100点満点中50点以上を評価基準とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	楽曲(2)を譜読みする	発声・呼吸法・譜読み	
2.	楽曲(2)を分析し歌う	発声・呼吸法・譜読み	
3.	楽曲(2)を歌い込む	録音し、反復練習	
4.	楽曲(2)を歌い込む	録音し、反復練習	
5.	楽曲(2)に台詞とステージングを入れて表現する	録音し、反復練習	
6.	楽曲(2)に台詞とステージングを入れて表現する	録音し、反復練習	
7.	楽曲(2)を発表(課題)する	客観的に振り返る	
8.	楽曲(3)を譜読みする	発声・呼吸法・譜読み	
9.	楽曲(3)を分析し歌う	発声・呼吸法・譜読み	
10.	楽曲(3)歌い込む	録音し、反復練習	
11.	楽曲(3)にステージングと台詞を入れて表現する	録音し、反復練習	
12.	楽曲(3)を(課題)発表する	客観的に振り返る	
13.			
14.			
15.			
教科書	プリントを配布する		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度(30%) 授業内課題(70%)		
特記すべき 事項	動ける服装で受講のこと。 1987年～2017年東京にて多数のミュージカル作品に出演、演出。		
質問・相談等 の受付	随時可		

科目	舞台演習 I	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	井上嘉人	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	舞台監督の仕事を通して、舞台創造の基礎を学ぶ 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(1)に対応する。		
到達目標	舞台芸術におけるスタッフワークについての基礎知識を身に付ける。		
学習成果の 評価基準	受講態度に加え授業内課題の成果やレポートの提出で評価をします。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	劇場の基礎知識を学ぶ①(講義内容の説明)	予習: シラバスを読む(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
2.	劇場の基礎知識を学ぶ②(劇場見学① 大谷小劇場の見学)	予習: 劇場の事を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
3.	劇場の基礎知識を学ぶ③(劇場見学② 大谷講堂の見学)	予習: 劇場の事を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
4.	劇場の基礎知識を学ぶ④(舞台用語① 舞台基礎知識の把握)	予習: 舞台用語を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
5.	劇場の基礎知識を学ぶ⑤(舞台用語② 舞台基礎知識の把握)	予習: 舞台用語を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
6.	舞台でのバミリについての説明と実践(公演に向けての作業①)	予習: バミリを調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
7.	電動工具(インパクトドライバー)の使用法(公演に向けての作業②)	予習: 電動工具を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
8.	劇場の舞台機構を覚える(綱元の仕組み)	予習: 劇場機構を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
9.	劇場の舞台機構を覚える(綱元操作①)	予習: 劇場機構を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
10.	劇場の舞台機構を覚える(綱元操作②)	予習: 劇場機構を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
11.	舞台図面の見方(舞台平面図、舞台断面図、舞台転換表)	予習: 舞台図面を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
12.	舞台での安全作業について学ぶ	予習: 安全作業を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
13.	舞台の仕込み①(平台と箱馬の仕込み)	予習: 劇場備品を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
14.	舞台の仕込み②(舞台幕類の仕込み)	予習: 劇場備品を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
15.	まとめ(前期の復習・振り返りと点検)	予習: 前期を振り返る(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度(40%)、授業内課題(30%)、レポート課題(30%)		
特記すべき 事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談の 受付	質問・相談は授業の前後に受け付ける。		

科目	舞台演習Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	井上嘉人	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	前期の舞台演習Ⅰで学んだ基礎知識を基に、より詳細な劇場スタッフに必要な知識を学ぶ。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(4)に対応する。		
到達目標	質の高い舞台芸術を創作するためのスタッフの役割と業務を理解する。		
学習成果の 評価基準	受講態度に加え授業内課題の成果やレポートの提出で評価をします。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	前期の復習(前期で学んだ事の再確認)	予習: 前期を振り返る(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
2.	網元操作の復習①(舞台機構の再確認)	予習: 舞台機構を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
3.	網元操作の復習②(舞台機構の再確認)	予習: 舞台機構を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
4.	舞台監督の役割についての説明と確認①	予習: 舞台監督を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
5.	舞台監督の役割についての説明と確認②	予習: 舞台監督を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
6.	各スタッフとの連携①(業務内容と打ち合わせ事項)	予習: スタッフ業務考察(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
7.	各スタッフとの連携②(タイムスケジュール)	予習: スタッフ業務考察(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
8.	舞台監督のしごと①(劇場の仕込みの流れ)	予習: 仕込みを調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
9.	舞台監督のしごと②(各スタッフとの連携)	予習: スタッフ業務考察(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
10.	舞台監督のしごと③(舞台転換の確認・テクニカルリハーサル)	予習: 舞台転換を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
11.	舞台備品の仕込み方①(電動工具を使った大道具設置)	予習: 電動工具を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
12.	舞台備品の仕込み方②(スチールデッキ)	予習: 劇場備品を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
13.	舞台備品の仕込み方③(ビニールマット)	予習: 劇場備品を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
14.	舞台備品の仕込み方④(パネルの仕込み)	予習: 劇場備品を調べる(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
15.	まとめ(後期の復習・振り返りと点検)	予習: 後期を振り返る(30分) 復習: 授業を振り返る(30分)	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度40%、授業内課題30%、レポート30%		
特記すべき 事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等 の受付	質問・相談は授業の前後に受け付ける。		

科目	音響基礎 I	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	稲田裕司	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	この授業では音響の基本知識・技術の習得を理解し実際に演劇公演等での音響基礎知識の技法を学ぶ。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(1)に対応する。		
到達目標	中間発表に必要な音響技術の実習を到達目標とする。 (演劇公演等に行うSE(効果音)等の再生オペレートを行う作業)		
学習成果の 評価基準	基礎的な到達度確認テスト(レポート)を実施し評価する。 授業での積極的な態度や活動を評価とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	音響の基礎① 音響システムの基本構成と役割について①	予習30分: PAについて調べる 復習30分: 前回の内容を振り返る	
2.	音響の基礎② 音響システムの基本構成と役割について②	予習30分: 音響システムについて調べる 復習30分: 前回の内容を振り返る	
3.	各種ケーブルの巻き方① マイクケーブルを実際に巻く	予習30分: ケーブルの巻き方8の字巻きについて調べる 復習30分: 前回の内容を振り返る	
4.	各種ケーブルの巻き方② 太めのマルチケーブルを巻く	予習30分: ケーブルの巻き方8の字巻きについて調べる 復習30分: 前回の内容を振り返る	
5.	音響機器の特性と用途①	予習30分: オーディオ再生機器について調べる 復習30分: 前回の内容を振り返る	
6.	音響機器の特性と用途②	予習30分: その他のオーディオ再生機器について調べる 復習30分: 前回の内容を振り返る	
7.	音響ミキサーについて①	予習30分: アナログミキサーについて調べる 復習30分: 前回の内容を振り返る	
8.	音響ミキサーについて②	予習30分: アナログミキサーの操作方法について調べる 復習30分: 前回の内容を振り返る	
9.	音響ミキサーについて③	予習30分: アナログミキサーの操作方法について調べる2 復習30分: 前回の内容を振り返る	
10.	音響機材の接続①	予習30分: 音響機材接続について調べる 復習30分: 前回の内容を振り返る	
11.	音響機材の接続②	予習30分: その他音響機材接続について調べる 復習30分: 前回の内容を振り返る	
12.	音響機材の接続③	予習30分: その他音響機材接続について 復習30分: 前回の内容を振り返る	
13.	劇場の音響について①	予習30分: 劇場等の音響システムについて調べる 復習30分: 前回の内容を振り返る	
14.	劇場の音響について②	予習30分: 劇場等の音響システムについて調べる2 復習30分: 前回の内容を振り返る	
15.	まとめ	予習30分: これまでの内容を振り返る 復習30分: 本科目を振り返る	
教科書	なし		
参考書	マイクロホンテクニック		
学習成果の 評価方法	受講態度 (40%) 授業内課題 (30%) その他【到達度テスト】(30%)		
特記すべき 事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等 の受付			

科目	音響基礎Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	穂田裕司	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	この授業では、音響の基礎技術を習得し、音響システムを理解し音響のオペレーターの技法を学ぶ。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(1)に対応する。		
到達目標	音が出るまでの配線等を理解しオペレーターを行える事を目指す。		
学習成果の 評価基準	到達度確認テストを実施し評価する。 授業での積極的な態度や活動を評価とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習	
		予習・復習	
1.	音響の仕込み図の書き方①	予習30分：記号・楽器等について調べる 復習30分：前回の内容を振り返る	
2.	音響の仕込み図の書き方②	予習30分：音響仕込み図について調べる 復習30分：前回の内容を振り返る	
3.	仕込み図を見てのセッティング	予習30分：仕込み図の見方を調べる 復習30分：前回の内容を振り返る	
4.	劇場にての音出し	予習30分：どのような音響セッティングがあるか調べる 復習30分：前回の内容を振り返る	
5.	イコライザーでの調整方法	予習30分：イコライザーについて調べる 復習30分：前回の内容を振り返る	
6.	エフェクターの種類について	予習30分：エフェクターの種類を調べる 復習30分：前回の内容を振り返る	
7.	音源の編集①	予習30分：効果音について調べる 復習30分：前回の内容を振り返る	
8.	音源の編集②	予習30分：音源の編集方法を調べる 復習30分：前回の内容を振り返る	
9.	音源の編集③	予習30分：音源の編集方法を調べる 復習30分：前回の内容を振り返る	
10.	デジタルミキサーの使い方①	予習30分：デジタルミキサーについて調べる 復習30分：前回の内容を振り返る	
11.	デジタルミキサーの使い方②	予習30分：デジタルミキサーについて調べる 復習30分：前回の内容を振り返る	
12.	音源の再生①	予習30分：音響システムからの音出しについて調べる 復習30分：前回の内容を振り返る	
13.	音源の再生②	予習30分：音響システムからの音出しについて調べる 復習30分：前回の内容を振り返る	
14.	音響機器を一人で接続してみる①	予習30分：音響機材の配線について調べる 復習30分：前回の内容を振り返る	
15.	まとめ	予習30分：これまでの内容を振り返る 復習30分：本科目を振り返る	
教科書	なし		
参考書	なし		
学習成果の 評価方法	受講態度 (40%) 授業内課題 (30%) その他【到達度テスト】 (30%)		
特記すべき 事項	この科目の単位が取得できなければ、後期「音響基礎Ⅱ」は履修できない 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談 の受付			

科目	照明基礎 I	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	辻 恵子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	舞台照明の基礎知識と作業内容の学習		
到達目標	舞台芸術における照明の役割を理解する		
学習成果の 評価基準	受講態度及び授業内課題の成果で評価		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	舞台照明の役割、光の当て方、機材の種類	予習 (30分) 舞台照明について調べる 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
2.	舞台芸術における様々な照明演出効果、専門用語について	予習 (30分) 舞台芸術について調べる 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
3.	カラーフィルター及びゴボの使用法と管理	予習 (30分) 光の三原色について調べる 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
4.	照明仕込図、電気の知識について	予習 (30分) 照明仕込図について調べる 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
5.	ケーブルの種類、DMX信号について	予習 (30分) 舞台照明用配線器具について 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
6.	サスペンションライト吊込み、安全作業について	予習 (30分) 安全作業について調べる 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
7.	チャンネル表、パッチ、点灯チェック、トラブル対応等	予習 (30分) 仕込図の確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
8.	フォーカス（サス）、照明操作棒の取り扱い方法	予習 (30分) 仕込図の確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
9.	フォーカス（ステージ、フロント、シーリング）、高所作業について	予習 (30分) 仕込図の確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
10.	夏公演～プランニング、キューシート作成、イメージ共有	予習 (30分) 台本の確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
11.	夏公演～仕込図およびチャンネル表について	予習 (30分) キューシートの確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
12.	夏公演～仕込み	予習 (30分) 仕込図の確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
13.	夏公演～フォーカス	予習 (30分) 仕込図の確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
14.	夏公演～明かりづくり（調光卓操作）、きっかけ合わせ	予習 (30分) キューシートの確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
15.	夏公演～ふりかえり	予習 (30分) 作業全般のふりかえり 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 (50%) 授業内課題 (50%)		
特記すべき 事項	作業ができる服装・皮手袋を必要とします。 担当者は舞台照明技術者として30年の実務経験を有します。		
質問・相談等 の受付			

科目	照明基礎Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	辻 恵子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	作品の照明演出効果を考える。照明仕込図についての学習。		
到達目標	作品に必要な照明をイメージすることができる。		
学習成果の 評価基準	受講態度及び授業内課題の成果で評価		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習・復習	
1.	前期学習内容のふりかえり、今後の学習について	予習 (30分) 前期での作業内容の確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
2.	アンドワン公演～プランニング	予習 (30分) 台本の確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
3.	アンドワン公演～仕込図およびチャンネル表を読む	予習 (30分) プランニングの確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
4.	アンドワン公演～フォーカス	予習 (30分) 仕込図の確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
5.	アンドワン公演～シーンの再生（調光卓操作）	予習 (30分) 台本の確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
6.	アンドワン公演～まとめ	予習 (30分) 作業全般のふりかえり 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
7.	撤去作業、安全作業、機材メンテナンスについて	予習 (30分) 舞台照明機材メンテナンスについて 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
8.	卒業公演～プランニング、キューシート作成	予習 (30分) 台本の確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
9.	卒業公演～プランニングの共有	予習 (30分) キューシートの確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
10.	卒業公演～仕込図およびチャンネル表を読む	予習 (30分) キューシートの確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
11.	卒業公演～仕込み、パッチ、点灯チェック	予習 (30分) 仕込図の確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
12.	卒業公演～フォーカス	予習 (30分) 仕込図の確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
13.	卒業公演～明かりづくり（シーン記憶・再生・修正）	予習 (30分) キューシートの確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
14.	卒業公演～きっかけ合わせ	予習 (30分) 台本の確認 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
15.	卒業公演～ふりかえり	予習 (30分) 作業全般のふりかえり 復習 (30分) 授業内容ふりかえり	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 (50%) 授業内課題 (50%)		
特記すべき 事項	作業ができる服装・皮手袋を必要とします。 担当者は舞台照明技術者として30年の実務経験を有します。		
質問・相談等 の受付			

科目	表現基礎	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	河本章宏	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	いかなる表現もその大元となるのは「感情」である。その「感情」を表現するために、訓練された発声法が必要であり、肉体が必要である。この講座では基本となる感情の動きに焦点を合わせ舞台表現者としての基礎を学びます。		
到達目標	自己の肉体と声を知り、自分にしか出来ない自由な表現が出来るようになる。		
学習成果の 評価基準	授業内課題において評価する。 ①ニュートラルに立ち、歩くことが出来る。 ②腹式呼吸で大きく発声することが出来る。 ③嘘のない感情表現をすることが出来る。 ④獨創性を持ち、自由な発想で表現することが出来る。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	発声法(1)（発声の仕組みを学ぶ）	ウォーミングアップ（予習30分・復習30分）	
2.	発声法(2)（腹式呼吸について）	ウォーミングアップ（予習30分・復習30分）	
3.	発声法(3)（身体の共鳴について）	ウォーミングアップ（予習30分・復習30分）	
4.	肉体表現(1)（肉体コントロールとリラックス）	ウォーミングアップ・発声・リラックス（予習30分・復習30分）	
5.	肉体表現(2)（動物を観察する）	ウォーミングアップ・発声・リラックス（予習30分・復習30分）	
6.	肉体表現(3)（音楽に身を任せる）	ウォーミングアップ・発声・リラックス（予習30分・復習30分）	
7.	感情表現(1)（感情の起こりを学ぶ）	自分の感情と向き合う（予習30分・復習30分）	
8.	感情表現(2)（相手からもらうことが真実に繋がる）	人物を観察する（予習30分・復習30分）	
9.	感情表現(3)（衝動に身を任せる）	心を開放する（予習30分・復習30分）	
10.	エチュード(1)（自由な発想と刺激と反応について学ぶ）	存在することを考える（予習30分・復習30分）	
11.	エチュード(2)（リアリズム演技とは～想像の設定の中で真実を生きる）	存在することを考える（予習30分・復習30分）	
12.	エチュード(3)（相手からもらい、伝える）	存在することを考える（予習30分・復習30分）	
13.	空間演技(1)（空間の中で自分と相手との関係を感じる）	ウォーミングアップ・発声・リラックス（予習30分・復習30分）	
14.	空間演技(2)（目に見えないものを表現するには）	ウォーミングアップ・発声・リラックス（予習30分・復習30分）	
15.	課題発表	ウォーミングアップ・発声・リラックス（予習30分・復習30分）	
教科書	プリントを配布する。		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度（30%）授業内課題（70%） 授業内課題発表時にコメントし、フィードバックします。		
特記すべき 事項	1987年～2017年まで東京において俳優・演出家として数々の作品に出演し、演出する。 ジャージやスウェットなど動ける服装で受講のこと。		
質問・相談等 の受付	随時可。		

科目	表現基礎	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	河本章宏	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	いかなる表現もその大元となるのは「感情」である。その「感情」を表現するために、訓練された発声法が必要であり、肉体が必要である。この講座では基本となる感情の動きに焦点を合わせ舞台表現者としての基礎を学びます。		
到達目標	自己の肉体と声を知り、自分にしか出来ない自由な表現が出来るようになる。		
学習成果の 評価基準	授業内課題において評価する。 ①ニュートラルに立ち、歩くことが出来る ②腹式呼吸で大きく発声することが出来る ③嘘のない感情表現をすることが出来る ④独創性を持ち、自由な発想で表現することが出来る。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
16.	漫才・コント(2) (ネタ作る)	プロのネタを見る (予習30分・復習30分)	
17.	漫才・コント(3) (ネタを添削する)	ネタを合わせる (予習30分・復習30分)	
18.	漫才・コント(4) (発表する)	笑いとはなにか考える (予習30分・復習30分)	
19.	シーン・ワーク(1) (戯曲の理解と分析)	台本を読み込む (予習30分・復習30分)	
20.	シーン・ワーク(2) (戯曲の理解と分析)	人物の背景を分析する (予習30分・復習30分)	
21.	シーン・ワーク(3) (人物を演じる)	言葉の意味とベクトルを理解する (予習30分・復習30分)	
22.	シーン・ワーク(4) (人物を演じる)	感情を準備する (予習30分・復習30分)	
23.	シーン・ワーク(5) (相手を感じる)	相手の台詞を聴く (予習30分・復習30分)	
24.	シーン・ワーク(6) (相手を感じる)	相手を観察する (予習30分・復習30分)	
25.	シーン・ワーク(7) (自由な衝動に身を任せる)	相手に集中する (予習30分・復習30分)	
26.	シーン・ワーク(8) (制約の中で衝動に身を任せる)	俯瞰で自分を見る (予習30分・復習30分)	
27.	シーン・ワーク(9) (発声と肉体を使って表現する)	感情を伝えることを考える (予習30分・復習30分)	
28.	シーン・ワーク(10) (存在する)	表現を削る (予習30分・復習30分)	
29.	シーン・ワーク(11) (発表する)	楽器を整える (予習30分・復習30分)	
30.	まとめ	前期を振り返る (予習30分・復習30分)	
教科書	プリントを配布する。		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度 (30%) 授業内課題 (70%) 授業内課題発表時にコメントし、フィードバックします。		
特記すべき 事項	1987年～2017年まで東京において俳優・演出家として数々の作品に出演し、演出する。 ジャージやスウェットなど動ける服装で受講のこと。		
質問・相談 の受付	随時可。		

科目	舞台表現法 I	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	日下部 信	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	演技理論、演技ワークショップを交えながら戯曲と日本語を有効的に学ぶ。また、実践として、小規模の上演発表を行い、作品と演技の理解を深める。本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(5)に対応する。		
到達目標	人間の内にある思考や感情を省察し、適切に表現することができる。		
学習成果の評価基準	演技表現に関する積極的な取り組み、発表を「授業態度」の評価とする。作品研究、人物考察の達成度を測るための「到達度確認テスト」で評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	イントロダクション/学びのねらいと進め方について 稽古場の三原則を理解する。	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
2.	マップコミュニケーションと登場人物の背景について分かる	予習: MAPを作成する(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
3.	演劇ワーク「条件つきバスケット」と「ジョハリの窓」解説	予習: ウォーミングアップをする(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
4.	複式呼吸を体得し、バランスの取れた身体感覚を持つことが出来る	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
5.	身体運動と下半身の安定、ニュートラルな姿勢・歩行のレッスン	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
6.	演劇ワーク「WA!」「ストーリーづくり」気持ちの開放について	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
7.	「見る・見られる」ことによる心理的・身体的観察が出来る	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
8.	緊張のコントロールについて「自意識とイメージ力」考察	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
9.	丹田を知覚し、心身の状態を保つことに役立つ	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
10.	演劇ワーク「母音ゼスチャー」5つの母音について理解する	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
11.	日本語の音声構造を理解し、発声技能を高めることが出来る	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
12.	いろいろな音声を出し、自分の発話の特徴をつかむことが出来る	予習: 自分の声の特徴を挙げる(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
13.	良い発声について考察し、コントロールを試みることが出来る	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
14.	演劇ワーク「一枚の絵」「演技連鎖」の身体感覚を知る	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
15.	身体感覚と記憶を知覚することが出来る	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 今までの学びを振り返る(30分)	
教科書	必要に応じて資料を配布する		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度50%、到達度確認テスト50%		
特記すべき事項	劇作家・演出家として29年の実務経験を有している		
質問・相談等の受け付け	九州大谷Online (Classroom) で随時受け付け可		

科目	舞台表現法Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	日下部 信	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	演技理論、演技ワークショップを交えながら戯曲と日本語を有効的に学ぶ。また、実践として、小規模の上演発表を行い、作品と演技の理解を深める。本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(5)に対応する。		
到達目標	人間の内にある思考や感情を省察し、適切に表現することができる。		
学習成果の評価基準	演技表現に関する積極的な取り組み、発表を「授業態度」の評価とする。作品研究、人物考察の達成度を測るための「到達度確認テスト」で評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	イントロダクション/学びのねらいと進め方について 稽古場の三原則をあらためて確認する	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
2.	演劇ワーク「一問一答」物になって語ることが出来る	予習: エチュードについて知る(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
3.	演劇ワーク「彫刻家」身体認識を深める	予習: ウォーミングアップをする(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
4.	キャラクターの考察ができる、エンパシーの理解が出来る	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
5.	ひとり台詞(科白)「ブンナよ、木からおりてこい」イメージが出来る	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
6.	イメージと演技の型、類似体験と類似人物の引用を理解出来る	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
7.	演劇ワーク「新聞記者」取材による人間観察が出来る	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
8.	演劇ワーク「空間構成」舞台の動き方に慣れる	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
9.	演劇ワーク「王様と家臣」ステータスに基づく人物的特徴を把握出来る	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
10.	集団創作「ある部活動」エチュードの考察が出来る	予習: エチュードの定義を思い出す(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
11.	集団性を持つ芸術性の特徴を理解できる	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
12.	対話の種類「3つの輪」を理解出来るその1	予習: 自分の声の特徴を挙げる(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
13.	対話の種類「3つの輪」を理解出来るその2	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
14.	プロデュースと計画を自ら実行出来る	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 授業内容を振り返る(30分)	
15.	知識と学習のまとめ/到達度確認テスト	予習: 配布資料を読んでおく(30分) 復習: 今までの学びを振り返る(30分)	
教科書	必要に応じて資料を配布する		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度50%、到達度確認テスト50%		
特記すべき事項	劇作家・演出家として29年の実務経験を有している		
質問・相談等の受付	九州大谷Online (Classroom) で随時受け付け可		

科目	舞台演習基礎 I	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	河本章宏	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	演劇作品を通して舞台表現をゼロから創作していく。脚本、演出、照明、音響、衣裳、小道具、出演者、すべての創作活動はクリエイターたちとのコミュニケーションから放たれ、観客に伝達されていく。舞台が出来るまでを基礎から学べる総合的な学びです。		
到達目標	表現者としての知識・技能の習得を通し、自らの課題を発見することができる		
学習成果の評価基準	公演目標達成度で評価します。 (1)公演に向けて明確な目標を立てる。 (2)仲間とコミュニケーションを取ることが出来る。 (3)自由な発想で表現することが出来る。 (4)演出家の意図を汲み表現することが出来る。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	本読み(1)	台本を読んでおく(予習30分・復習30分)	
2.	本読み(2)	台本を分析する(予習30分・復習30分)	
3.	本読み(3)	役の背景を考える(予習30分・復習30分)	
4.	本読み(4)	時代背景を考える(予習30分・復習30分)	
5.	テーブルトーク①	公演の目標を考える(予習30分・復習30分)	
6.	テーブルトーク②	今の自分に足りないことを考える(予習30分・復習30分)	
7.	テーブルトーク③	なりたい自分を想像する(予習30分・復習30分)	
8.	テーブルトーク④	自分自身の到達目標を定める(予習30分・復習30分)	
9.	立ち稽古(1)	台詞と感情を覚える(予習30分・復習30分)	
10.	立ち稽古(2)	台詞と感情を覚える(予習30分・復習30分)	
11.	立ち稽古(3)	台詞と感情を覚える(予習30分・復習30分)	
12.	立ち稽古(4)	台詞と感情を覚える(予習30分・復習30分)	
13.	立ち稽古(5)	立ち位置と相手との関係を覚える(予習30分・復習30分)	
14.	立ち稽古(6)	立ち位置と相手との関係を覚える(予習30分・復習30分)	
15.	立ち稽古(7)	立ち位置と相手との関係を覚える(予習30分・復習30分)	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の評価方法	授業態度(50%) 公演目標達成度(50%)		
特記すべき事項	1987年~2017年東京で俳優、演出家として数々の作品に出演し、演出する。		
質問・相談等の受付	随時可。		

科目	舞台演習基礎 I	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	河本章宏	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	演劇作品を通して舞台表現をゼロから創作していく。脚本、演出、照明、音響、衣裳、小道具、出演者、すべての創作活動はクリエイターたちとのコミュニケーションから放たれ、観客に伝達されていく。舞台が出来るまでを基礎から学べる総合的な学びです。		
到達目標	表現者としての知識・技能の習得を通し、自らの課題を発見することができる		
学習成果の評価基準	公演目標達成度で評価します。 (1)公演に向けて明確な目標を立てる。 (2)仲間とコミュニケーションを取ることが出来る。 (3)自由な発想で表現することが出来る。 (4)演出家の意図を汲み表現することが出来る。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
16.	立ち稽古(8)	行動の意味を考える(予習30分・復習30分)	
17.	立ち稽古(9)	行動の意味を考える(予習30分・復習30分)	
18.	立ち稽古(10)	行動の意味を考える(予習30分・復習30分)	
19.	立ち稽古(11)	行動の意味を考える(予習30分・復習30分)	
20.	立ち稽古(12)	行動の意味を考える(予習30分・復習30分)	
21.	抜き稽古(1)	演出意図を考える(予習30分・復習30分)	
22.	抜き稽古(2)	演出意図を考える(予習30分・復習30分)	
23.	抜き稽古(3)	演出意図を考える(予習30分・復習30分)	
24.	抜き稽古(4)	演出意図を考える(予習30分・復習30分)	
25.	抜き稽古(5)	演出意図を考える(予習30分・復習30分)	
26.	衣装合わせ	イメージに合った衣裳を選ぶ(予習30分・復習30分)	
27.	衣装合わせ	イメージに合った衣裳を選ぶ(予習30分・復習30分)	
28.	通し稽古(1)	ノートを確認・修正(予習30分・復習30分)	
29.	通し稽古(2)	ノートを確認・修正(予習30分・復習30分)	
30.	通し稽古(3)	ノートを確認・修正(予習30分・復習30分)	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の評価方法	授業態度(50%) 公演目標達成度(50%)		
特記すべき事項	1987年～2017年東京で俳優、演出家として数々の作品に出演し、演出する。		
質問・相談等の受付	随時可。		

科目	舞台演習基礎Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	河本章宏	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	演劇作品を通して舞台表現をゼロから創作していく。脚本、演出、照明、音響、衣裳、小道具、出演者、すべての創作活動はクリエイターたちとのコミュニケーションから放たれ、観客に伝達されていく。舞台が出来るまでを基礎から学べる総合的な学びです。		
到達目標	表現者としての知識・技能の習得を通し、自らの課題を発見することができる		
学習成果の評価基準	公演目標達成度で評価します。 (1)公演に向けて明確な目標を立てる。 (2)仲間とコミュニケーションを取ることが出来る。 (3)自由な発想で表現することが出来る。 (4)演出家の意図を汲み表現することが出来る。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	小道具作成1	使用する小道具を抜き出す(予習30分・復習30分)	
2.	小道具作成2	小道具リストを作る(予習30分・復習30分)	
3.	小道具作成3	制作準備(予習30分・復習30分)	
4.	小道具作成4	制作準備(予習30分・復習30分)	
5.	大道具作成1	舞台図の把握(予習30分・復習30分)	
6.	大道具作成2	使用する道具の把握(予習30分・復習30分)	
7.	大道具作成3	作成準備(予習30分・復習30分)	
8.	大道具作成4	作成準備(予習30分・復習30分)	
9.	大道具作成5	作成準備(予習30分・復習30分)	
10.	情報宣伝1	宣伝ツール確認(予習30分・復習30分)	
11.	情報宣伝2	チラシ制作準備(予習30分・復習30分)	
12.	情報宣伝3	デザイン準備(予習30分・復習30分)	
13.	情報宣伝4	チケット・ポスターデザイン準備(予習30分・復習30分)	
14.	舞台稽古1	台詞を覚える(予習30分・復習30分)	
15.	舞台稽古2	台詞を覚える(予習30分・復習30分)	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の評価方法	授業態度(50%) 公演目標達成度(50%)		
特記すべき事項	1987年～2017年東京で俳優、演出家として数々の作品に出演し、演出する		
質問・相談等の受付	随時可。		

科目	舞台演習基礎Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	河本章宏	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	演劇作品を通して舞台表現をゼロから創作していく。脚本、演出、照明、音響、衣裳、小道具、出演者、すべての創作活動はクリエイターたちとのコミュニケーションから放たれ、観客に伝達されていく。舞台が出来るまでを基礎から学べる総合的な学びです。		
到達目標	表現者としての知識・技能の習得を通し、自らの課題を発見することができる		
学習成果の評価基準	公演目標達成度で評価します。 (1)公演に向けて明確な目標を立てる。 (2)仲間とコミュニケーションを取ることが出来る。 (3)自由な発想で表現することが出来る。 (4)演出家の意図を汲み表現することが出来る。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
16.	舞台稽古3	台詞を覚える(予習30分・復習30分)	
17.	舞台稽古4	台詞を覚える(予習30分・復習30分)	
18.	舞台稽古5	台詞を覚える(予習30分・復習30分)	
19.	舞台稽古6	台詞を覚える(予習30分・復習30分)	
20.	キューシート作成する	各セクションきっかけの把握(予習30分・復習30分)	
21.	転換表を作成する	各セクションきっかけの把握(予習30分・復習30分)	
22.	番盤表を作成する	台本確認(予習30分・復習30分)	
23.	通し稽古1	流れをさらしておく(予習30分・復習30分)	
24.	通し稽古2	ノートを確認・修正(予習30分・復習30分)	
25.	通し稽古3	ノートを確認・修正(予習30分・復習30分)	
26.	通し稽古4	ノートを確認・修正(予習30分・復習30分)	
27.	通し稽古5	ノートを確認・修正(予習30分・復習30分)	
28.	通し稽古6	本番通りの準備(予習30分・復習30分)	
29.	通し稽古7	本番通りの準備(予習30分・復習30分)	
30.	通し稽古8	本番通りの準備(予習30分・復習30分)	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の評価方法	授業態度(50%) 公演目標達成度(50%)		
特記すべき事項	1987年～2017年東京で俳優、演出家として数々の作品に出演し、演出する		
質問・相談等の受付	随時可。		

科目	作家作品研究 I	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	梁木靖弘	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	この授業では、近代社会で広い意味での芸能がどのように変貌してきたかを考える。能・狂言・文楽・歌舞伎などの伝統芸能を除いて、社会の西欧化が大衆芸能に与えた影響は計り知れない。明治以来、急速に変貌し続ける大衆芸能を多面的に把握しておくことは、その方面に進むための基礎教養である。映画などを鑑賞しながら理解を深める。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(1)に対応する。		
到達目標	大衆芸能がいかに近代化と折り合いをつけてきたか、その全体像を大づかみに知ること。前期ではモダニズムと芸能の関係を学び、後期には文化史における芸術様式の変遷を学ぶ。		
学習成果の評価基準	芸能文化史におけるさまざまな表現傾向を自分なりの言葉で表現できるようにする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ジャニーズから振り返る近代(モダン)と大衆芸能(エンターテインメント) 1	「ホモ・ルーデンス」を読み遊びについて考える(予習1時間)	
2.	ジャニーズから振り返る近代(モダン)と大衆芸能(エンターテインメント) 2	前近代の芸能はいかにモダン取り合いをつけたのかを400時でまとめる(復習1時間)	
3.	前近代の女形から、宝塚歌劇を考える。タカラヅカは近代の歌舞伎? 1	「芸」と「芸術」の違いについて調べる(予習1時間)	
4.	前近代の女形から、宝塚歌劇を考える。タカラヅカは近代の歌舞伎? 2	女方が女優にとってかわった理由を考える(復習1時間)	
5.	そもそもアイドルとは何か? アイドル映画「伊豆の踊子」の旅芸人と学生さんから芸能を考える。1	芸能と芸術の関係について調べる(予習1時間)	
6.	そもそもアイドルとは何か? アイドル映画「伊豆の踊子」の旅芸人と学生さんから芸能を考える。2	民族芸能と放浪芸の違いを考える(復習1時間)	
7.	芸能人とアイドルは同じ? 違う? 山口百恵と松田聖子の違いを考える。1	素人と玄人の違いを調べる(予習1時間)	
8.	芸能人とアイドルは同じ? 違う? 山口百恵と松田聖子の違いを考える。2	身分制度について考えまとめる(復習1時間)	
9.	芸術にも芸能にもメロディとハーモニーの時代がある。1	美空ひばりとくレージャッツについて調べる(予習1時間)	
10.	芸術にも芸能にもメロディとハーモニーの時代がある。2	スタート集団の時代はどう違うのかをまとめる(復習1時間)	
11.	泣き笑い。なぜ悲劇と喜劇、大衆芸能ににわかと浪花節はあるのか? 1	悲劇と喜劇について調べる(予習1時間)	
12.	泣き笑い。なぜ悲劇と喜劇、大衆芸能ににわかと浪花節はあるのか? 2	地方と都会の文化について調べる(復習1時間)	
13.	カルチャーとサブカルチャー(サブカルあるいはアングラ)について。1	革命と祝祭について調べる(予習1時間)	
14.	カルチャーとサブカルチャー(サブカルあるいはアングラ)について。2	サブカルチャーについてまとめる。(復習1時間)	
15.	表現の文化をを考えてみよう	中間のまとめ(予復習1時間)	
教科書	なし		
参考書	教材は適宜コピーを配布する。毎時間、映像作品を使用する。		
学習成果の評価方法	受講態度20%、小テスト10%、授業内課題10%、授業内発表20%、授業内レポート40%		
特記すべき事項	実務経験: アジアフォーカス・福岡国際映画祭ディレクター(2007~2021)		
質問・相談等の受付			

科目	作家作品研究 I	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	梁木靖弘	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	この授業では、近代社会で広い意味での芸能がどのように変貌してきたかを考える。能・狂言・文楽・歌舞伎などの伝統芸能を除いて、社会の西欧化が大衆芸能に与えた影響は計り知れない。明治以来、急速に変貌し続ける大衆芸能を多面的に把握しておくことは、その方面に進むための基礎教養である。映画などを鑑賞しながら理解を深める。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(1)に対応する。		
到達目標	大衆芸能がいかに近代化と折り合いをつけてきたか、その全体像を大づかみに知ること。前期ではモダニズムと芸能の関係を学び、後期には文化史における芸術様式の変遷を学ぶ。		
学習成果の評価基準	芸能文化史におけるさまざまな表現傾向を自分なりの言葉で表現できるようにする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
16.	芸能と宗教の関係について。魂ふりと魂鎮めの役目。1	タマフリとタマシズメについて調べる。(予習1時間)	
17.	芸能と宗教の関係について。魂ふりと魂鎮めの役目。2	憑依する芸能についてまとめる。(復習1時間)	
18.	戦後の芸能には太陽の時代と月の時代があった。1	「太陽の季節」と「美少女戦士セーラームーン」について調べる。(予習1時間)	
19.	戦後の芸能には太陽の時代と月の時代があった。2	漫画「ねじ式」から演劇「熱海殺人事件」などから考えられたことをまとめる。(復習1時間)	
20.	怪談からホラーへ、そしてみんなゾンビになった。1	歌舞伎「東海道四谷怪談」について調べる。(予習1時間)	
21.	怪談からホラーへ、そしてみんなゾンビになった。2	怪談からホラーへの変化を考え、まとめる。(復習1時間)	
22.	活弁から声優へ。サイレント映画とトーキー映画の違いを考える。1	映画「雨に唄えば」を観ておく。(予習1時間)	
23.	活弁から声優へ。サイレント映画とトーキー映画の違いを考える。2	映画の出現は演劇をどのように変えたのかについてまとめる。(復習1時間)	
24.	一度きりのアウラ(オーラ)とコピー可能な複製芸術について考える。1	ベンヤミン「複製芸術について」を読んでおくこと。(予習1時間)	
25.	一度きりのアウラ(オーラ)とコピー可能な複製芸術について考える。2	ホンモノとは何かを考え、まとめる。(復習1時間)	
26.	フィルム・レコーダー・タイプライターの終わり、モダンの終わり?1	近代化で記録の方法がどのように変化したかを調べる。(予習1時間)	
27.	フィルム・レコーダー・タイプライターの終わり、モダンの終わり?2	コンピュータでの記録は、どんな意味を持つのかを考える。(復習1時間)	
28.	近代(モダン)が終わりつつあるとすれば、芸能の現在地はどこにあるのか?1	今の社会のありかたを考える。(予習1時間)	
29.	近代(モダン)が終わりつつあるとすれば、芸能の現在地はどこにあるのか?2	液状化する社会という考え方について考えをまとめる。(復習1時間)	
30.	まとめ	期末レポートを書く。	
教科書	なし		
参考書	教材は適宜コピーを配布する、毎時間、映像作品を使用する。		
学習成果の評価方法	受講態度20%、小テスト10%、授業内課題10%、授業内発表20%、期末授業内レポート40%		
特記すべき事項	実務経験：アジアフォーカス・福岡国際映画祭ディレクター(2007~2021)		
質問・相談等の受付			

科目	作家作品研究Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	梁木靖弘	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	この授業では、身体表現の現場で常識として知っておかなければならない文化史のキーワードを選び、映像などを通して考え、文化表現の広がりや深さを把握する。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(1)に対応する。		
到達目標	大衆芸能がいかに近代化と折り合いをつけてきたか、その全体像を大づかみに知ること。前期ではモダニズムと芸能の関係を学び、後期には文化史の重要な芸術様式を学ぶ。		
学習成果の評価基準	芸能文化史におけるさまざまな表現傾向を自分なりの言葉で表現できるようにする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	文化の二つのかたち ディオニュソスの陶酔とアポロンの明晰 1	「ニーチェ『悲劇の誕生』」を読んでおく。(予習1時間)	
2.	文化の二つのかたち ディオニュソスの陶酔とアポロンの明晰 2	芸術の源流についてまとめる。(復習1時間)	
3.	放浪する笑い コメディ・デラルテ 1	芸術の源流についてまとめる。(予習1時間)	
4.	放浪する笑い コメディ・デラルテ 2	役柄が固定する吉本新喜劇などとの共通点を考える。(復習1時間)	
5.	歪んだ真珠 バロックBaroqueについて 1	バロックということばを調べておく。(予習1時間)	
6.	歪んだ真珠 バロックBaroqueについて 2	恋愛のお手本「ロミとジュリ」(復習1時間)	
7.	軽薄はステキ ロココRococoについて1	「ベルサイユのばら」について調べる。(予習1時間)	
8.	軽薄はステキ ロココRococoについて2	ロココ的「みやびなる宴」についてまとめる。(復習1時間)	
9.	ここではないどこかへ行きたい ロマンチック 1	ロマン主義について調べておく。(予習1時間)	
10.	ここではないどこかへ行きたい ロマンチック 2	ロマン主義についてまとめる。(復習1時間)	
11.	あるがままがすべてだ リアリズム 1	リアリズムについて調べておく。(予習1時間)	
12.	あるがままがすべてだ リアリズム 2	リアルとリアリティの違いについて考える。(復習1時間)	
13.	すべてを断ち切るモダニズム 1	モダニズムということばを調べてみる。(予習1時間)	
14.	すべてを断ち切るモダニズム 2	モダニズムということばを調べてみる。(復習1時間)	
15.	それぞれの特徴を考えてみよう	中間のまとめ	
教科書	なし		
参考書	教材は特にないが、映像作品、ドキュメンタリーなどを使用する。		
学習成果の評価方法	受講態度20%、小テスト10%、授業内課題10%、授業内発表20%、授業内レポート40%		
特記すべき事項	実務経験：アジアフォーカス・福岡国際映画祭ディレクター(2007～2021)		
質問・相談の受付			

科目	作家作品研究Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	梁木靖弘	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	この授業では、身体表現の現場で常識として知っておかなければならないキーワードを選び、映像などを通して体感し、文化表現の広がりや深さを把握する。		
到達目標	必要なキーワードを、実際の作品を通して体感し、社会における文化表現の全体像を大づかみに知る。前半では主にジャンルを学び、後半には特徴的な表現形態を学ぶ。		
学習成果の 評価基準	文化芸術史におけるさまざまな表現傾向を自分なりの言葉で表現できるようにする。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
16.	ミシンとこうもり傘が解剖台で出会うシュルレアリスム（超現実主義）1	シュルレアリスムということばを調べる。（予習1時間）	
17.	ミシンとこうもり傘が解剖台で出会うシュルレアリスム（超現実主義）2	「シュール」というときの使い方を考える。（復習1時間）	
18.	内面をえぐるヤバさが表現主義 1	表現主義ということばを調べる。（予習1時間）	
19.	内面をえぐるヤバさが表現主義 2	表現主義ということばを調べる。（復習1時間）	
20.	内面のスタニスラフスキーと外面のメイエルホリド 20世紀は演出家の時代 1	演出家とはどんな存在かを調べる。（予習1時間）	
21.	内面のスタニスラフスキーと外面のメイエルホリド 20世紀は演出家の時代 2	指揮者や演出家、映画監督などがアートの中心になったのはなぜかを考える。（復習1時間）	
22.	まるごと世界を描きたい全体演劇 1	指揮者や演出家、映画監督などがアートの中心になったのはなぜかを考える。（予習1時間）	
23.	まるごと世界を描きたい全体演劇 2	歌舞伎からアニメ、ゲームまでまるごと世界を体感するということばを調べる。（復習1時間）	
24.	20世紀は映画の時代だったけれども 21世紀は？ 1	今の時代に映画とは何かを考える。（予習1時間）	
25.	20世紀は映画の時代だったけれども 21世紀は？ 2	娯楽か芸術か？時代遅れか？それかを考える。（復習1時間）	
26.	ダンスのないミュージカルは面白いのか？1	ミュージカルの面白さをまとめる。（予習1時間）	
27.	ダンスのないミュージカルは面白いのか？2	ミュージカルの面白さをまとめる。（復習1時間）	
28.	そうこうするうちに演劇はパフォーマンスへ 1	パフォーマンスということばを調べておく。（予習1時間）	
29.	そうこうするうちに演劇はパフォーマンスへ 2	演劇ということばでなく新たなことばを探索しなければならないのはなぜか。（復習1時間）	
30.	期末レポート	近代の終わり	
教科書	なし		
参考書	教材は特にないが、映像作品、ドキュメンタリーなどを使用する。		
学習成果の 評価方法	受講態度20%、小テスト10%、授業内課題10%、授業内発表20%、期末授業内レポート40%		
特記すべき 事項	実務経験：アジアフォーカス・福岡国際映画祭ディレクター（2007～2021）		
質問・相談 の受付			

科目	読書と豊かな人間性	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	梅野智美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	豊かな人間性を育てる読書生活のために、発達段階に応じた読書教育の理念と方法の理解を図る。また、「言葉」による表現で読書に親しむための実技を学ぶ。 本授業は、情報司書フィールドの学習成果(3)に対応する。		
到達目標	発達段階に応じた読書の違いに振れ多様化する読書資料の活用ができるようになる。また、絵本の選定や読み聞かせの手法を学び、コミュニケーションを取りながら人前で読み聞かせ等ができるようになる。		
学習成果の評価基準	到達目標にしている、発達段階に応じた読書資料の活用の達成度及び絵本の読み聞かせの実技、到達度確認テスト(期末レポート)を実施し評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	読書の意義と目的について	予習:なぜ読書をしなければならないのか(120分) 復習:授業を振り返る(120分)	
2.	読書能力の発達について	予習:さまざまなリテラシーについて考える(120分) 復習:授業を振り返る(120分)	
3.	読書興味の発達について	予習:発達段階によつての読書を考える(120分) 復習:授業を振り返る(120分)	
4.	読書興味の発達段階について	予習:就学時までの読書について考える(120分) 復習:授業を振り返る(120分)	
5.	読書興味の発達段階について	予習:小学低学年の読書を考える(120分) 復習:授業を振り返る(120分)	
6.	読書興味の発達段階について	予習:小学校高学年の読書を考える(120分) 復習:授業を振り返る(120分)	
7.	読書興味の発達段階について	予習:中高年生以上の読書を考える(120分) 復習:授業を振り返る(120分)	
8.	読書の導入的な指導	予習:環境整備について考える(120分) 復習:授業を振り返る(120分)	
9.	読書体験表現・交流について	予習:自分の読書体験について考える(120分) 復習:授業を振り返る(120分)	
10.	公共図書館と学校図書館の連携	予習:公共図書館と学校図書館の連携を考える(120分) 復習:授業を振り返る(120分)	
11.	絵本の選定、絵本の絵を読み解くなど、内容について深く学ぶことができる(理論)(1)	予習:いろいろなジャンルの絵本を読む(120分) 復習:授業を振り返る(120分)	
12.	絵本の選定、絵本の絵を読み解くなど、内容について深く学ぶことができる(理論)(2)	予習:いろいろなジャンルの絵本を読む(120分) 復習:授業を振り返る(120分)	
13.	絵本の読み聞かせを実演し、読み手と聞き手の関係性を学ぶ(実技)	予習:読み聞かせの練習(120分) 復習:授業を振り返る(120分)	
14.	絵本の読み聞かせを実演し、絵本のめくり方、間の取り方、終わり方などを学ぶ(実技)	予習:読み聞かせの練習(120分) 復習:授業を振り返る(120分)	
15.	授業総括	予習:今までの授業内容を振り返る(120分) 復習:今までの授業を振り返る(120分)	
教科書	『新版読書と豊かな人間性』朝比奈大作ほか/放送大学教育振興会		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	受講態度(10%)定期試験(60%)授業内発表(30%) 到達度確認テストを実施後、フィールドバックします。		
特記すべき事項	担当者は司書として17年の実務経験を有しています。絵本セラピストとしての実務経験を有しています。		
質問・相談の受付			

科目	基礎演習 I	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	日下部 信・河本章宏	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	1年次のアンドワン発表公演。前期から学んできた様々な表現形態や技術の集大成として、舞台発表を公開でおこないます。台本分析から始まり、キャストイング、読み合わせ、立ち稽古、通し稽古、リハーサル、本番、公演ふりかえりまでの過程を学びます。本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(8)に対応する。		
到達目標	<p>公演目標達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりが公演に向けて明確な目標を立てる。 ・他者と協働し、場を動かして公演製作の役割を担える。 ・演出家の意図を汲み取り、劇場空間において表現することができる。 		
学習成果の評価基準	公演目標達成度で評価する。授業態度に加え、各達成度を測るために、到達確認テストや活動報告レポートの提出をおこない、評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	読み合わせ(1)	台本を読んでおく(予習30分・復習30分)	
2.	読み合わせ(2)	台本を分析する(予習30分・復習30分)	
3.	読み合わせ(3)	台詞を覚える(予習30分・復習30分)	
4.	読み合わせ(4)	台詞を覚える(予習30分・復習30分)	
5.	立ち稽古(1)	香盤表を確認する(予習30分・復習30分)	
6.	立ち稽古(2)	ミザンスを確認する(予習30分・復習30分)	
7.	立ち稽古(3)	ミザンスを確認する(予習30分・復習30分)	
8.	立ち稽古(4)	ミザンスを確認する(予習30分・復習30分)	
9.	立ち稽古(5)	ミザンスを確認する(予習30分・復習30分)	
10.	立ち稽古(6)	ミザンスを確認する(予習30分・復習30分)	
11.	通し稽古(1)	演出ノートを確認(予習30分・復習30分)	
12.	通し稽古(2)	演出ノートを確認(予習30分・復習30分)	
13.	通し稽古(3)	演出ノートを確認(予習30分・復習30分)	
14.	衣装合わせ(1)	役の衣装を考える(予習30分・復習30分)	
15.	衣装合わせ(2)	着こなしを考える(予習30分・復習30分)	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の評価方法	授業態度(50%) 公演目標達成度(50%)		
特記すべき事項	劇作家・演出家として28年の実務経験を有している。		
質問・相談の受付	九州大谷Online(Classroom)で随時受け付け可。		

科 目	基礎演習Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	日下部 信・河本章宏	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	1年次のアンドワン発表公演。前期から学んできた様々な表現形態や技術の集大成として、舞台発表を公開でおこないます。台本分析から始まり、キャスティング、読み合わせ、立ち稽古、通し稽古、リハーサル、本番、公演ふりかえりまでの過程を学びます。 本授業は表現学科演劇放送フィールドの学習成果(8)に対応する。		
到達目標	公演目標達成度 ・ひとりひとりが公演に向けて明確な目標を立てる。 ・他者と協働し、場を動かして公演製作の役割を担える。 ・演出家の意図を汲み取り、劇場空間において表現することができる。		
学習成果の 評価基準	公演目標達成度で評価する。 授業態度に加え、各達成度を測るために、到達確認テストや活動報告レポートの提出をおこない、評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習	
		予習・復習	
1.	照明合わせ(1)	立ち位置の確認(予習30分・復習30分)	
2.	照明合わせ(2)	照明に入る(予習30分・復習30分)	
3.	照明合わせ(3)	照明に入る(予習30分・復習30分)	
4.	舞台稽古(1)	役と役の交流を考える(第一段階)(予習30分・復習30分)	
5.	舞台稽古(2)	役と役の交流を考える(第二段階)(予習30分・復習30分)	
6.	舞台稽古(3)	役と役の交流を考える(第三段階)(予習30分・復習30分)	
7.	舞台稽古(4)	役と役の交流を考える(第四段階)(予習30分・復習30分)	
8.	舞台稽古(5)	役と役の交流を考える(第五段階)(予習30分・復習30分)	
9.	舞台稽古(6)	役と役の交流を考える(第六段階)(予習30分・復習30分)	
10.	舞台稽古(7)	役と役の交流を考える(第七段階)(予習30分・復習30分)	
11.	上演(1)	成果発表後ノートをつける(予習30分・復習30分)	
12.	上演(2)	ノートを元に修正する(予習30分・復習30分)	
13.	上演(3)	ノートを元に修正する(予習30分・復習30分)	
14.	上演(4)	ノートを元に修正する(予習30分・復習30分)	
15.	まとめ	振り返り(予習30分・復習30分)	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度(50%) 公演目標達成度(50%)		
特記すべき 事項	劇作家・演出家として28年の実務経験を有している。		
質問・相談等 の受付	九州大谷Online(Classroom)で随時受け付け可。		